

## 倉馬の里だより

### 里山倶楽部大活躍

11月23日 光陽の里の大豆畑の収穫を行った。離れた千羽で一人大豆を栽培していた松井の畑は猪に襲われた。まさか、大豆を猪が襲うとは想定外で、襲われたとしても無農薬の畑の下のミミズを狙ったのでは……とも思っていたのだが、猪の出没はこちらの方が頻繁だと心配して、溝口会長に助言して、収穫を早めて貰ったのだったが、心配することなく、順調、人手も十分であったという間に刈り終わり、池上さんのハウスで乾燥をして貰った。

### サカタのタネ見学会

11月24日サカタのタネ見学会に13名が参加した。



寒い日だったが、キュウリ、茄子、大根……と珍しい野菜の生かじりの連続に見学者一同、来シーズン、何を栽培するか、贅沢な悩みを持つ



て返りました。見学会終了後は、アトリエにて幹事会を開催、今後の活

動方針を相談しました。

里山倶楽部の秋の収穫としては、カモシカに蕎麦を荒らされ、残念な結果に終わったが、米は249kgと前年実績(240kg)を上回りました。鴨の食害、倒伏など問題はありましたが、何とか無事に出来ました。会員の皆さんは美味しいお米を堪能していることでしょう。

里山倶楽部のような活動が農作業の原点ではなかったのかと近頃、

思うようになって来た。一人では持て余すような作業も、大勢でわいわい冗談が弾む和やかな雰囲気の中で鼻歌交じりに片がついていく。なのに、近頃は機械が発達したから、一人で作業する、黙々と倒れても誰に気づかれることなく……、本来の農の楽しみには、仲間との触れあい、それがあつたのではないか。

定年退職して暇を持て余して、私たちの里山倶楽部に「そんな一銭にもならんような馬鹿をよくやるよ」と嗤っている人たち、経済第一主義でいると、定年〓無収入〓無価値で

さみしく過ごす老後を心配しなければならぬ。里山倶楽部へどうぞ会社人間が、会社をなくすと地域社会に放り出されて、「俺は会社で部長だったから区長くらいできるよ、やってあげる」と言われても、地域社会のルールを知らない人間に、そんな大役任すわけがない。その点、奥様方はしたたかに地域社会での井戸端会議的なコミュニケーションによりうまく地域社会に溶け込んでいます。

高齢化社会のなごやかな過ごし方のこつは、そこら当たりには有りそうだ。里山倶楽部で、野菜の旨味、醍醐味を知った旦那達に奥さまは、おもりを持って余すかも知れない、里山倶楽部の今後のさらなる活発な活動を期待する。歯を食いしばってやるガマンではなく、鼻歌交じりの「俺も仲間に入れてくれ」的な面白活動。田舎で暮らしていることの楽しさを実感する。(松井記)